

事項三 加州土地法成立後ノ日本人所有地処理關係

四〇一 五月九日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法成立ニ依リ日本人ノ蒙ムルベキ影響
及其ノ善後策上申ノ件

第一七四号(至急)

土地法成立ノ結果日本人ノ蒙ムルヘキ影響ノ内最直接且顯著ナルモノ左ノ三点アリ

(一) 当州日本人ノ土地買入レノ方法ハ多クハ年賦ニシテ所有權移転ニハ大抵地価ノ三割乃至六割ヲ払込ムヲ必要トス然ルニ目下日本人カ買入土地中右歩合ノ未払ノタメ所有權移転セサルモノ概算一萬五千「エーカー」位アルベシ然ルニ今回土地法ノ制定ニヨリ日本人ノ權利ニ関スル内外ノ信用ヲ動搖セシメ資金ノ融資困難トナリ年賦殘額不払ノタメ遂ニ契約ヲ無効ニスルノ已ムヲ得サル場合ニ至ルモノ尠ナカラサルヘシ

(二) 日本人所有地ノ大部分ハ從來概ネ抵当トシテ日本人又ハ米國銀行ヨリ資金融通ヲ受ケ居ルモ上述ノ通り日本人

ノ權利ニ関スル信用動搖スルニ於テハ今後ハ從來ノ如キ融通ヲ得難ク遂ニ其所有地ヲ捨売スルノ厄ニ陥ルモノ尠ナカラサルヘシ蓋シ日本人所有地ハ多クハ狹少ナル小口モノニシテ米國人中ニハ買手尠ナク從テ我ニ於テモ之レヲ売払ハントスル時ハ捨売リノ外ナカルヘク資本家カ融通ヲ好マサルモ畢竟之カ為メナリ

(三) 借地期限ヲ三ヶ年ト限定スル結果毎「アスペラガス」果樹等ノ如キ長期ノ借地ヲ必要トスル事業ハ其經營困難ナルヘシ尤モ三年ノ終リニ臨ミ之レヲ更新スルコトヲ得ヘシト雖之レ地主ノ好意ニ依ルノ外ナク日本人ノ立場ヨリ云ヘハ安シテ其事業ヲ営ムコト能ハサルヘシ
前記ノ影響ハ今後人心ノ動搖ト共ニ益々劇甚トナルナキヲ保セス之レニ對スル善後心策トシテ憲法ノ規定ニ依ル州法施行停止期間九十日ノ間ニ於テ前段(一)ニ對シ此際直ニ払込ミヲ為シ所有權ヲ確定セシメ(二)ニ對シ資金ノ融通ヲ為スタメ滿洲ニ於ケル橫濱正金銀行特別貸付ノ例ニ倣ヒ当地橫

濱正金銀行支店ヲシテ確實ナル本邦人關係ノ不動産ニ對シ貸付ヲナサシムル様此ノ際適當ノ便法ヲ講スルコト焦眉ノ急務ト存セラル右ニ要スル資金ハ目下精査中ナルモ差当リ約五十萬弗ノ見込ナリ然レトモ前記九十日ノ短時日ニテハ全部ノ急ヲ救フニ足ラサルニ付能フヘクハ半年間位中央政府ニ於テ此ノ法律ノ違憲ナラサルヤヲ確ムル間又ハ外交談判中其ノ施行ヲ停止セシムルコト極メテ必要ナリ(三)ニ付テハ救済策考究中

右至急御詮議ノ上何分ノ義御回電ヲ請フ

大使ヘ第一六六号ヲ以テ電報シタリ

四〇二 五月十一日 在桑港沼野總領事代理宛(電報)

加州土地法成立後ノ事態ニ関スル善後策ニ付回訓ノ件

第四一号

貴電第一七四号閱悉本件ハ土地法成立ノ上ハ善後策ノ一ツトシテ慎重考慮ヲ要スル義ナルガ貴電中(一)ニ関シテハ大体真相ヲ誤ラサルモノト認メラル、モ(二)ニ就テハ該法成立ノ

為メ資金融通ニ多少ノ障害ヲ及ホスコトハアリ得ヘキモ所有地ヲ捨売同様ニ放棄スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシト觀測スルハ較早計ニ失セサト懸念セラル、ニヨリ事實果シテ如此窮境ニアルヤ充分御精査ノ上更ニ考量ヲ加ヘラレタル上改メテ申出デラルルモ遅カラサルベシ將又法律ノ実行停止方ニツキ政府ニ於テ適當ノ措置ヲ採ルヘキハ勿論ナリ

四〇三 五月二十三日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

日本人ノ土地所有權確定ニ必要ノ資金融通方ニ

付稟申ノ件

第一九八号

貴電第四一号ノ件御回示ニ從ヒ目下夫々調査中ナルカ右ノ内往電第一七四号ノ一ハ加州土地法成立ノ今日差向キ措置ヲ要スト存セラル、ニ付御考量ノ上何分ノ御回示アリタシ尚右ニ関シ該法施行停止方ニ関スル御措置本官限り御通報アリタシ

大使ヘ電報シタリ

四〇四 五月二十六日 牧野外務大臣ヨリ 在桑港沼野総領事代理宛 (電報)

日本人買入土地中独力所有権ヲ確定シ得サル面
積問合ノ件

第五〇号

貴電一九八号ニ関シ貴電一七四号ノ一概算一萬五千「エーカー」ノ内實際自己ノ融通ニヨリ所有権ヲ移転セシメ能ハサルモノ則チ御申越ノ如キ融通ヲ絶対必要トナスモノ、面積ハ幾何ナリヤ為念承知シタシ

土地法施行停止方ニ関スル米國政府ト交渉ノ成行ハ隨時珍田大使ヨリ承知セラルベシ

四〇五 六月十一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ 牧野外務大臣宛 (電報)

日本人買入土地ノ地券取得ノ為他ヨリ融資ヲ要スル面積及金額報告ノ件

第二一四号

貴電第五〇号ニ関シ今日迄ノ調査ニ依レハ自己ノ融通ニ依リ地券ヲ移転セシメ能ハサルモノハ Florin, Fresno 其ノ他数箇所ニ於テ二千三百「エーカー」其ノ地価約二十七萬

四〇七 六月十七日 牧野外務大臣ヨリ 在桑港沼野総領事代理宛 (電報)

日本人買入土地ノ資金ニ付不當請求者アリトノ風説ニ関スル件

第五三三号

往電第五二二号ニ関シ在留民中博覧会ヲ見込ミ投機的ニ買入契約ヲナセル土地カ今回打撃ヲ受ケタルヲ以テ不當ニ私利ヲ図ランカ為資金ノ融通ヲ請求スル者アリトノ風説アリ真偽ハ知ラサルモ御注意迄

四〇八 六月二十四日 山川正金銀行総支配人ヨリ 松井外務次官宛

加州土地法ノ在留日本人ニ及ホス影響ニ関スル桑港正金支店報告書写送付ノ件

第五〇八号

大正貳年六月廿四日

横浜正金銀行

総支配人 山川 勇 木代 (穂積印)

松井外務次官殿

拝啓加州外国人土地所有権法案州会通過後日本人ニ及ボス

七千弗ニシテ右地券移転ノタメ今後要スル資金約十六萬四千弗ナリ而シテ日米年鑑ニ依レハ上記各地ニ於ケル日本人ノ所有地ハ合計二萬「エーカー」(売却済ナルモ地券移ラサルモノヲ含ム)トシテ右以外即チ未タ当館ニ報告セサル地方ニ於ケル所有地約六千五百「エーカー」アルニ付前記ノ標準ニヨリ推算スルトキハ總額二十一萬七千三百弗ヲ要スヘキ割合ナルモ前記各地中ニモ報告洩レ渺カラサルニ付此等ニ基ク違算ヲ見込ミ約二十五萬アレハ大抵十分ナルヘシト思考ス不取敢電稟ス大使ヘ電報ス

四〇六 六月十六日 牧野外務大臣ヨリ 在桑港沼野総領事代理宛 (電報)

日本人買入土地ノ資金ニ付正金支店長ト懇談方訓令ノ件

第五二二号

貴電二一四号ノ件ハ先以テ貴官ヨリ内密ニ貴地正金銀行支店長ニ懇談シ実情ヲ知ル同支店長ノ特別ナル考慮ヲ求メ適當ノ方法ニツキ熟議ヲ遂クルコトヲ試ミラレタシ

影響ニ付別紙写之通り五月十六日付ヲ以テ弊行桑港支店ヨリ報告有之候間御參考迄ニ茲ニ供御内覽候 敬具

(別紙)

大正二年五月十六日付

桑港支店来翰写

拝啓当加州外国人土地所有権法案州会通過ノ件ニ付テハ前便概略得貴意置候通りニ御座候法案ハ目下尚ホ州知事ノ手許ニアリ近ク署名ヲ得ハ成法トシテ施行被致候條ニ御座候而シテ従来ノ行キ掛リ上ヨリスレバ殆ト自己ノ提案タル該法案ニ対シ知事ハ署名ヲ拒ミ得サル可ク結局法律タルニ至ルヘントハ一般ノ觀測ニ御座候之ニ対スル在留邦人社会ノ運動モ爾後引続キ繼續致居リ帰化權獲得 Campaign of Education 等夫々各方面ノ運動ニ着手致シ就中月賦其他ノ延ヘ払方法ニテ土地ヲ購入シツ、アル農民ニシテ払込未済ノ為メ未タ地券ヲ得サルモノニ対シ此際一時資金ヲ供給シテ完全ニ所有権ヲ取得セシムルヲ以テ現下ノ急務トシ一方外交上ノ談判或ハ所謂 Test Case (該法案カ合衆國又ハ加州憲法ノ條項ニ違反シ從テ当然無効ナリトノ訴訟)ヲ提起致シテ一年乃至二年間該法律ノ実施ヲ停止セシメ其間如

上ノ方法ニヨリ完全ニ所有權ヲ取得セシムル為メ本国政府ヲ動かシテ相當金額ノ支出ヲ仰キ本行ノ手ヲ經テ貸出ヲナサシメントノ說中々盛ニシテ前便申述候通り既ニ各地日本人會ニ移牒シテ所要金額ノ調査ニ着手致シ今日ニ於ケル大體ノ見積リハ約五拾萬弗ノ融通ヲ得ハ目ノヲ達シ得可シトノ說ニ御座候右ニ就キテハ當地領事館ニ於テモ大ニ贊成ノ意嚮ヲ表シ居リ或ハ既ニ外務省ニ對シ其趣キ上申相成候哉トモ被存候ニ付其筋ヨリ本行ヘ内意諮問無之トモ限ラスト被存候ニ付キ御參考ノ為メ此際当店ノ所見ヲ一応左ニ略陳仕候

外國人土地所有法案ニシテ愈法律トシテ成立セハ外交上又ハ Test Case 提起等ノ手段ニヨリ暫時之カ施行ヲ阻止スルコトヲ得可ク之ノ時間ヲ利用シテ払込ノ中途ニアル土地ニ對シ資金融通ノ途ヲ開キ其土地ヲ担保トシテ銀行ニ提供セシメ月賦又ハ年賦等從前払込ミツアリシト同様ノ方法ニヨリ償還セシムレバ少クトモ現在邦人カ手ヲ染メタル事業文ケハ土地ト共ニ取り留メ得可ク之カ貸付資金迄モ本行ニ對シテ望ムハ不可能ナレハ資金ハ一時政府ヨリ融通ヲ仰キ之ヲ本行ニ委任セシメントノ說ハ一面甚タ機宜ヲ得タル措置ノ如キ觀有之候ヘ共現在ノ法案ガ其儘法律トナルモ

金ト異ナル所ナク回収ヲ断念セサル以上実行困難ナリ等ノ反對理由ヲ排除シテ資金貸出ヲ実行スルモ亦一便法タルコトヲ失ハスト被存候得共何分ニモ法律ノ規定ニシテ此ノ如キモノタル以上ハ結局何等益スル所ナクシテ終ルヘキモノト愚考仕候

当店觀察ニテハ土地所有權禁止ハ勿論邦人農業者ニ取リテ大打撃タルハ相違無之モ在留邦人ノ經營ヲ根底ヨリ顛覆シ全然發展ノ余地ヲ奪フモノトハ思料不被致邦人農業者全般ノ直接利害關係ヨリ推セハ土地所有權ノ禁止ヨリモ借地期限ヲ三ヶ年ニ制限セルコトノ方ガ多大ノ不便不利益ヲ与フルモノト被存候邦人農業者ト申スモノ自己ノ所有地ヲ耕作スルモノハ其數實ニ寥寥タルモノニシテ全体ノ極少部分ニ過キス且ツ農園所有土地買入ト申スコトハ最近發生シタル傾向ニ有之大多數ハ借地 (Lease) セル農園ヲ耕耘シ或ハ単ニ勞力ヲ供給シテ賃銀ヲ得ルモノニ有之且ツ邦人ノ主トシテ經營セル農作物ノ種類ニヨリテハ一定ノ土地ヲ所有シテ集約的 (Intensive) ノ耕作法ニヨリモ順次新墾地ヲ借地シテ粗放的 (Extensive) ノ經營ニヨルヲ便トスルモノ尠カラス現ニ邦人農園ノ大集團地方タル「サクラメント」河下地方ノ如キ馬鈴薯、玉葱、豆類ノ產地ニ於

ノト假定セハ到底実行難致説ト思考被致候夫ハ一時ニ資金ヲ払込ミテ完全ニ所有權ヲ取得シタリトスルモ同法ノ規定ニヨレバ如何ナル権源ニヨリテモ土地所有權ノ取得ハ邦人ニ對シテ禁セラレ相續サヘモ不可能ト可相成事ナレバ抵當權実行ノ結果日本法人タル本行ニ於テ其土地ヲ取得スルコト能ハス又邦人タル現在ノ所有者死亡スレハ邦人タル其子孫ハ之ヲ相續シテ債務履行ノ地位ニ當ル事ヲ得ス州檢事ノ手ヲ經テ本邦人以外ノ者ノ間ニ公売ニ付セラレ僅ニ其代金ノ交付ヲ受クルニ過キス到底抵當權ノ目的ト相成不申例ヘバ今日完全ニ土地所有權ヲ有スルモノニテモ唯本人一代限りニテ本人死亡セバ邦人タル相續人ハ之ヲ相續スルコトヲ得サル義ナレバ同法案ニシテ早晚實施可相成モノトスレバ今日巨資ヲ投シテ之カ救済ノ途ヲ講スルモ竟局其目的ヲ達スル能ハス投下セル資本ノ回収ハ難事トシテ難事タルヘシト思考被致候

更ニ此法律ニヨリ其施行前ニ取得シタル土地所有權ハ永久ニ之ヲ享有スルコトヲ得ルモノトセハ今日此際切迫セル短時日ノ調査ニヨリテハ安全ニ適當ノ貸出手続ヲ為ス事至難ナリトカ又ハ之ノ貸付ヲナストセバ殆ト對手方ノ取捨選択ヲ許ササル事情ニ因ハレ名ヲ貸付ニ仮ルモ實ハ一般の救済

テハ三四年ヲ期シテ耕作地ヲ移転スルヲ最モ有利トスル如キモノアリ又一方長期ニ亘ル一定ノ土地ヲ必要トスル果實園ノ如キハ資金饒多ナラサル邦人農業者中之ヲ所有スルモノ殆ト無之ト云ヒ得ヘク從テ土地所有權禁止ハ現在少許ノ地主農民ニ影響スル所大ナレトモ全体トシテノ損害ハ蓋シ豫想外ナルヘシト推察被致候

尚ホ今回ノ事件ニ関シテハ從來時々發生セル排日事件ノ際ニ見シ如ク在留邦人ニ侮辱又ハ危害ヲ加フル等ノ事實ハ全ク無之一方在留民ノ態度モ粗暴輕佻ニ陥ルモノナク此際ニ処シテハ先ツ満足スヘキ經過ヲ見ツ、有之候ニ付キ此辺ノ義ハ御安意有之可然ト存候

先ハ事件ノ經過御報告旁右申上度如此御座候 敬具

四〇九 七月十五日 牧野外務大臣ヨリ 在桑港沼野總領事代理宛 (電報)

邦人ノ土地買入資金ニ付協議ノ結果問合ノ件

第五八号

往電第五二号ニ関シ正金銀行支店長トノ熟識ノ結果電報アレ

四一〇 七月十六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

邦人ノ土地買入資金ニ付正金支店長ト協議ノ結
果回答ノ件

第二三一号

貴電第五八号ニ関シ当地横浜正金銀行支配人ト熟議ノ結果
同支配人ハ十六日本店宛別項ノ要領通電稟シタルニ付右提
案ニ対シ横浜正金銀行本店ニテ速ニ同意スル様可然御配慮
相成リタシ尚右ハ添田寿一氏トモ熟議ノ結果ナリ

地券移転ノ為払込ヲ要スル金額約二十五萬弗其内確實ナル
モノノミヲ選フトシテ約十五萬弗ヲ三年乃至五年ノ年賦償
還ニテ貸附ノ必要ヲ認ム貸附方法ハ当店直接ノ取扱ハ困難
ナルニ付各地ノ有力者各自ノ不動産ヲ提供シテ会社ヲ組織
シ当方ハ右会社ノ財産並ニ株主ノ信用ヲ標準トシテ会社ニ
貸附スルモノトス尤モ個人ト雖信用極メテ確實ナルモノハ
右ニ準シ取扱フモノトス右取計差支ナキヤ領事トモ相談ノ
結果ナリ

四一一 七月二十三日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

在留邦人ノ土地買入資金正金ヨリ融通ノ件

(附屬書)

横浜正金銀行本店及桑港支店間往復電報写(一)

(一)(三)(四)(五)

(一)

桑港支店宛電寫

六月廿一日横浜發

五月十六日付貴方書信ニテ申越ノ件外務大臣訓令ニ依リ領
事ニ於テ方案講究貴殿意見問合相成候筈篤ト研究進言可被
成尤モ資金ニ付テハ当方未ダ考案無之ニ付 Commit セサ
ル様注意セヨ

(二)

桑港支店來電寫

七月十六日桑港發
同 十七日横浜著

六月廿一日付貴方電信申越ノ件領事ト協議相遂候処取得ノ
為メ仕払ヲ要スル分 \$250,000 見当右ノ内確實ト認メ候モ
ノ丈ケ選振約 \$150,000 四五年間年賦貸出方必要ト存候方
法ハ全部直接当店取扱困難ナレハ各地ニ於ケル有力者各自
不動産提供ノ上數個会社創立当店ハ各社ノ財産並ニ株主ノ
信用ニテ会社ヘ貸出シ尚又個人トシテ確實ナル人物ニシテ
資産モ充分有之モノモ同様貸出スモノトス右ノ通り取扱候
テ差支無之候哉八月十日法律實施以前ニ実行ヲ要シ候ニ付
至急返電セヨ

第五九号

貴電第二三一号ニ関シ

正金銀行ハ十五萬弗ヲ限り融通スル事ニ決セリ委細ノ條件
ハ貴地支店長ヨリ聞取ラレタシ尚正金銀行ニ於テハ特別ノ
取計トシテ本件ヲ承諾シタル次第第二付如何ナル場合ニ於テ
モ該金額以上ニ登ル事ナキ様希望セルニヨリ右御含ノ上可
然処弁セラレタシ本件往復珍田大使ヘ転報アレ

四一二 七月二十三日 井上正金銀行副頭取ヨリ
坂田通商局長宛

加州在留邦人土地買入資金融通ニ関シ正金本店
ト桑港支店トノ往復電報報告ノ件

附屬書 右往復電報写(一)(二)(三)(四)(五)

第六〇三号

大正二年七月廿三日

横浜正金銀行

副頭取 井上準之助(印)

外務省

通商局長 坂田重次郎 殿

拜啓加州外国人土地所有權問題ノ件ニ関シ桑港支店ト往復
致候電信写別紙同封差出供貴覽候 敬具

(三)

桑港支店宛電信寫

七月十九日横浜發

十六日附貴電ニ対シ左ニ回答ス

仮リニ貸出ストセハ全然本行ノ責任ヲ以テ取扱フモノト承
知ノ上左ノ件々ニ関シ更ニ電報セヨ

一旦融通ノ途ヲ開キタル以上ハ充分ノ事由ナクシテ拒絶ス
レハ非難多カルヘク從テ金額増加スルモノト覚悟セサルヘ
カラス就テハ豫想金高重ネテ取調可被成会社組織セシムル
コト将来責任感スルコト輕ク実行上ハ寧ロ個人別ニ保證人
ヲ立テシムルコト却テ確實ト考フ土地ハ担保トシテ法律上
不完全ナリ故ニ多大ノ Margin ヲ要シ且ツ確實ナル保證
人ヲ要スヘク此点ニ関シ貴意如何

(四)

桑港支店來電寫

七月十九日桑港發
同 廿一日横浜著

十九日附貴方電信ニ対シ左ニ回答ス
多少非難ヲ免レス候ハンモ貸出方十六日付当方電信ニテ申
述候通り打切大体ノ目的ヲ達シ得ヘキ見込全部個人別ニ貸
出方時日切迫ノ際実行難出来ニ付会社ノ財産並ニ会社重役
連帶責任ニテ貸出方尤モ安全ナル方法ト存候八月十日以前
取得所有權ハ勿論同日前抵当權設定セハ法律上有効多大ノ

Margin 保證人等債權保全ノ為メ出来得ル限り尽力可致至急御詮議有之度

(四)

桑港支店宛發電

七月廿三日横浜発

十九日付貴方電信ニ対シ回答ス

借主ハ充分 Margin 提供今後 Instalment 払込見込確實ナルモノニ限ル貸出総額 \$150,000 ヲ制限トシ各自所有權獲得ニ必要ナル金額ニ止ムヘシ若シ今後年賦払込難出来場合アルモノ一切貸増ヲ為サ、ルコト抵当ハ地所ニ重キヲ置カス充分弁済資力アル重役ハ勿論其他ノモノヲ加ヘ連帯保證人タラシムヘシ右都テ満足ナレハ貴殿責任ヲ以テ意見通り実行セヨ

四一三 七月二十四日

松井外務次官ヨリ
水町正金銀行頭取宛

加州在留邦人ノ土地買入資金融通方ニ関シ依頼

ノ件

(親展)

拝啓陳ハ今回米国加州ニ於ケル新土地法制定ニ関聯シ曩ニ土地買入ノ約定成立セルモ代金払込未完了ノ為メ未タ所有

四一五 七月二十八日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法実施状況視察ノ為州内隨時出張方票

請ノ件

第二三六号

土地法八月十日ヨリ実施セラルヘキニ付右ニ対スル在留日本人ノ準備実施ノ状況等視察ノ為メ本官又ハ当館員ニ於テ八九兩月中時々州内各地ヘ出張ノ必要アリト認ムルニ付右本官ノ裁量ヲ以テ隨時取計方豫メ御許可ヲ請フ

四一六 七月二十九日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州土地法実施前在留本邦人權利保持ノ為法人

組織ノ件

第二三七号

土地法ニ依レハ帰化権ナキ外国人ノ土地所有權ハ相統ヲ認メラレサルニ付在留民ハ此不便ヲ避ケ出来得ル限り其權利ヲ維持センカ為メ土地法実施前ニ法人ヲ組織シ其存立期間ヲ五十年トシ土地所有權ヲ此ノ法人ニ移シツツアリ当館ノ知り得タル所ニ依レハ今日迄本邦人ヨリ設立届出ニ係ル此、

權ヲ取得スルニ至ラサル本邦人ニ対シ貴行ニ於テ資金ノ融通ヲ与ヘラレタキ儀ニ関シ在留民中ノ重立タル者ヨリ在桑港帝國領事ヘ切ニ申請ノ次第有之候趣同領事ヨリ報告致越候処右ハ此際加州在住同胞ノ為メ多大ノ便益ヲ供与スルモノト被存候ニ付貴行ニ於テモ此場合ニ鑑ミラレ何分御配慮相成候様致度此段得貴意候也

四一四 七月二十八日

井上正金銀行頭取ヨリ
阿部政務局長宛

加州在留邦人ノ土地買入資金融通開始ノ件

大正二年七月廿八日

横浜正金銀行頭取

井上準之助(印)

外務省

政務局長 阿部守太郎 殿

加州在留本邦人ノ土地買入資金融通ノ件ニ付桑港支店ヨリ左ノ通り來電有之候間此段御報告申上候也

七月廿六日桑港発來電

貴電ノ趣正ニ承知貴方電信ノ趣意ニ從ヒ貸出方本日ヨリ相始ム 以上

種ノ法人ハ「フレスノ」及「サクラメント」附近ニ限ラレ總數四十五資本總額百五十萬弗払込総額約五十萬弗ナリ
右大使ヘ電報ス

四一七 八月十五日

在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

加州土地法ニ関シ權利保持ノ為メ在留本邦人法

人組織ノ件

機密公第四八号

大正二年八月十五日

(九月三日接受)

在桑港

総領事代理 沼野安太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯 殿

今回制定セラレタル加州土地法ニ関シ在留本邦人カ法人ヲ組織シ各自ノ所有土地ヲ此等法人ノ所有ニ移シツツアリタル次第ハ七月二十八日不取敢拙電第二三七号ヲ以テ及報告候処其後モ此種ノ法人ヲ組織スルモノ続出シ八月十一日土地法実施前ニ法人組織ノ届出ヲナンタルモノ別表ノ通り九五、資本金二百四十一萬九千五百弗株式引受申込額(既

知ノ分) 毫百〇毫萬三千二百七十六弗五十仙ニ有之候尤モ此等法人ノ所有ニ移サレタル土地ノ英加數ハ目下調査中ニ付追テ報告可致候

右等法人組織ニ関スル事情ハ一応前記拙電中ニ報告致置候次第有之候得共為御參考詳細ニ重テ具報致候

(一) 加州土地法第貳條ニハ帰化権ナキ外国人ノ土地相続ヲ認メサルニ依リ在留邦人ノ現在所有地カ日本人ノ手ニアルハ本人ノ一代限りナラザル可ラズ然ルニ(法人ノ組織ニハ加州民法二九〇ニ依リ株主三名以上アレバ足ルニ依リ今回ノ如キ邦人ハ二三近親ノモノト談合ノ上ニテ組織シタルモノ多シ) 法人ヲ組織シ現金出資ニ換ヘ土地所有權ヲ之ニ移シ置キ己ハ其ノ出資額ニ相当スル株式ヲ受領シ置クトキハ土地ハ株式ニヨリ代表セラレ之ヲ自己ノ子女ニ相続セシムル場合ニハ即相続ノ目的物ハ株式ニ外ナラザルニ付キ土地法ノ制限ヲ免レ永ク土地所有ノ利益ヲ子孫ニ繼承セシムルコトヲ得

(二) 加州土地法第貳條ハ帰化権ナキ外国人ノ土地取得ヲ一般的ニ禁止シアルモ前記ノ通り法人ヲ組織シ出資ニ換ヘ土地所有權ヲ之ニ移シ置クトキハ土地所有權ハ当該法人ノ株式ニ因リ代表セラレ而シテ右株式ノ売買ハ勿論自由

組織ノ意義ヲ會得セズ法人ハ単ニ名義ニ過ギザルモノトシ土地ノ經營及之ニ伴フ収支計算等ハ從來ノ通り個々ニ之ヲ行ハントスルモノアルカ如シ斯ノ如クスルトキハ決算期ニ至リテハ遂ニ虚構ノ報告ヲナサザルベカラザルニ至リ当該官憲ニ依リ其非違ヲ摘発セラレ法人ハ解散シタルモノト看做サレ法人所有土地ハ公売換価セラルルニ至リ永ク土地ヲ邦人ノ手ニ保有セントスル法人組織カ反リテ土地ヲ喪失スルノ原因トナルヤモ難計ク其他法人ニ関スル法律上ノ手續モ數多アリ之ニ違反スルトキハ夫々不利不勘ニ付法人組織者間ノ有識者ニモ此等ノ点ニ付キ注意喚起ニ努メ居ル次第ニ有之候

尚因ニ一言スベキハ加州々法ノ下ニ組織セラルル法人ノ株式引受ニ関スル規定ハ我法制ノ下ニ於ケル株式会社(法人)ノソレト全ク異レル事ニ有之候即チ加州民法ニヨレバ普通株式組織ノ法人(銀行、鐵道業等ヲ目的トスル法人ニハ特別ノ規定アリ)ヲ組織スルニハ必ズシモ株式全部ノ引受アルヲ要セズ単ニ株主ヨリ全株式ノ幾部分カノ引受申込アレバ足ルモノニテ又右申込アリタル株式ニ就テモ法人成立ヲ要件トシテ法定ノ払込歩合アルニ非ス株式申込額ハ單ニ法人ノ資産負債ニ対スル株主ノ權利義務ノ多寡ヲ定ム

ナルニ依リ帰化権ナシトセラルル邦人間ニモ右株式売買ニ依リ事実上ニ土地売買ノ便宜アルコト

(三) 土地カ個人ノ所有ニ屬スルトキハ其個人ノ死亡ニ依リ何時相続ノ問題ヲ起シ土地法ノ適用ヲ受クルコトトナルヤモ計ラレザルコト前記ノ通りナルモ土地所有權ヲ法人ニ移シ置クトキハ法人ノ存立期限ハ加州民法第二九〇條(別紙参照)ニ依リ最長五十年ニ及ヒ得ルノミナラズ同憲法第七條(別紙参照)ニ依レハ右法人存立期限ハ其満了前更ニ五十年ヲ超ヘザル期間(其延長ノ時ヨリ)之ヲ延長スルコトヲ得ヘク又右期間延長ハ其度數ニ制限ナキニ依リ法人ノ土地所有權ハ永久のナルノ便宜アルコト尤モ右延長ノ場合ニハ土地法第三條其他ノ適用ヲ受クル虞ナキヤ否ヤハ多少ノ議論ノ余地アルヘキモ法律家ノ意見ニ依ルニ右期限延長後モ法人ハ其儘旧來ノ權利義務ヲ保有スルモノト見得ベシトノコトナリ

右ハ今回法人組織ノ利益アル点ナレドモ今後法人經營ニ就テハ相當注意ヲ要スルコトアリ、即チ右法人ハ重ニ土地所有者各自ノ家族又ハ兄弟等ヲ以テ之ヲ組織セルモ中ニハ往々二名以上數名ノ土地所有者相集リテ一ノ法人ヲ組織セル者アリ此等法人ノ株主トナリタルモノノ内ニハ充分ニ法人

ル標準ニ過ギズ候從テ本信前段法人ノ申込株金額トアルハ此意ニシテ實際ノ資金(土地評價)払込額ハ右ト多少ノ相違アルコトト被存候從テ又客月廿八日附拙電第二三七号末段ニ於テ法人ノ資本「払込總額約500,000」トアルハ株式引受申込總額ノ誤ニ付右様御了知相成度候

尚別紙トシテ甲)加州在留日本人組織ニ係ル土地所有法人地方別表乙)加州憲法及民法拔萃丙)法人定款(Articles of Incorporation)写丁)丙号法人定款ニ対スル加州 Secretary of Stateノ證明書写各通為御參考添付致置候ニ付御査閱相成度候
右申進候 敬具

附屬書類

- 甲号 加州在留日本人ノ組織ニ係ル土地所有法人地方別表 表
- 乙号 加州憲法及民法拔萃 表
- 丙号 法人定款(Articles of Incorporation) 表
- 丁号 丙号法人定款ニ対スル加州 Secretary of Stateノ證明書写 表
- 計 四通

註 乙号丙号及丁号省略

加州在留日本人ノ組織ニ係ル土地所有法人地
方別表

地方名	個数	資本額	株式引受 申込額	備考
フレスノ	四	一、四七、一五〇 弗	八〇、一八四 弗	
バカビル	四	四三、〇〇〇	二六、〇〇〇	
オクスナード	四	六五、〇〇〇	一七、五八五	
メリスビル	四	七〇、〇〇〇	一、五〇〇	
サンバーナーデノ	一	一〇、〇〇〇		
アラメダ	一	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	
イムペリアル	一	五〇、〇〇〇	四、〇〇七 五十仙	
リヴィングストン	三	四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	
ロサンゼルス	一	一〇、〇〇〇		
ニュー、キャッ スル	三	三〇、〇〇〇		
ペンリン	三	三〇、〇〇〇		
フロリン	一	一〇、〇〇〇		
桑 港	三	四〇、〇〇〇		
ヴァイセリア	一	一五、〇〇〇		
ダイニューバ	一	一〇、〇〇〇		
Opair	二	一〇、〇〇〇		

ポモナ	一	一〇、〇〇〇	
オークランド	二	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
Exeter	二	一一、〇〇〇	
エスパルト	一	一〇、〇〇〇	
ルミス	四	五五、〇〇〇	
ガタループ	一	一〇、〇〇〇	
ハンフォード	二	四〇、〇〇〇	
レッドウード、 シチー	一	一〇、〇〇〇	
シルヴァービル	一	一五、〇〇〇	
リチモンド	一	一五、〇〇〇	
オウボレン	一	一〇、〇〇〇	
ツラレ	二	三〇、〇〇〇	
サクラメント	一	一〇、〇〇〇	
サンロレンゾ	一	一〇、〇〇〇	
計	五	一、四三、六四〇	一、〇一三、一七六、四〇

四一八 九月一日 山川正金銀行頭取代理ヨリ
阪田通商局長宛

加州在留邦人ノ土地買入資金貸付状況報告ノ件

附屬書 右貸付状況ニ関スル正金銀行桑港支店来翰写

第六六六号

大正貳年九月一日

横浜正金銀行

頭取代理取締役 山川 勇 木 (印)

外務省

坂田通商局長殿

拝啓米国土問題ニ関連セル不動産担保ノ貸金締切り候趣
ヲ以テ其顚末別紙写之通り幣行桑港支店ヨリ報告有之候間
茲ニ供御内覧候 敬具

(附屬書)

大正二年八月十一日付 桑港支店来翰写

拝啓土地ニ対スル特別貸付ノ儀当月九日ニテ締切り貸出高
左記ノ通り合計金九萬八百八拾五弗参拾五仙ト相成申候之
ニ対スル担保書類ノ大部分目下登記役場ニ於テ登記中ニ付
キ全部手續相済ミ次第明細表調製貴覽ニ供シ可申候ヘ共不
取敢地方別金額御報申上候右ニテ此際補助ノ価値アル土地

三 加州土地法成立後ノ日本人所有地処理關係 四一八

ニ対シテハ大体貸付ヲ了シタル次第ニ有之当初豫測仕候金
額ニ達セサリシハ取捨ノ標準ヲ嚴格ニ致候結果ニ有之自然
豫定額全部ヲ貸出シ得サリシ義ニ御座候

桑港王府附近 金参千四百五拾弗也

南加地方(羅府附近) 金壹萬参千参百七拾壹弗也

中加地方(フレスノ市附近) 金七万〇〇六拾四弗参拾五

仙也

フロリン附近 金四千弗也

合 計 金九萬八百八拾五弗参拾五仙也

右御報告申上度如此御座候也

四一九 十月 四日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛 (電報)

加州土地法ノ解釈上子ガ親ノ所有地ヲ取得スル
方法ニ関シ邦字新聞ニ発表ノ可否及松尾平六ノ
遺産土地ニ関スル措置ニ付請訓ノ件

第二六一号

加州土地法第一條中ノ transmit 及第二條中ノ transfer
ナル兩語ノ意義ニ関スル Clark 氏意見 (Short Memorandum P. 4. Long Memorandum P. 8. 以下) ニ依リ考察

四一九

四二七

スルニ米國出生日本人ト雖日本人タル親ノ土地ヲ取得セントセハ親ノ生存中之ヲ讓受クル外ナキカ如シ若シ果シテ然リトセハ在留日本人ヲシテ各自豫メ萬全ノ策ヲ講セシムル必要アルヘク就テハ右法律解釈ノ趣旨ヲ当地邦字新聞ニ掲載セシメ可然ヤ至急何分ノ御電訓アリタシ

現ニ「フレスノ」附近 Delrey 居住松尾平六ナル者此程死亡セル趣ニテ十月四日右届出アリタルガ同人ハ生前土地ヲ所有シ居リタル模様ナルヲ以テ処分方ニ付目下取調中「テストケース」其他ニ関シ此際特別ノ御方針アラハ至急何分ノ御電訓アリタシ

大使へ電報ス

四二〇 十月 五日 在桑港沼野總領事代理宛（電報）

松尾平六生前ノ所有地ニ付確メ方訓令ノ件

第七三号

貴電第二六一号ニ関シ松尾平六生前實際土地ヲ所有セシヤ否ヤ大至急確メ電報アレ

四二三 十月 七日 在桑港沼野總領事代理宛（電報）

加州ニテ死亡セル松尾ノ所有地面積遺言ノ有無等取調方訓令ノ件

第七四号

貴電第二六三号ニ関シ

宅地ハ家屋付キナリヤニ「ロット」ノ面積幾何ナリヤ遺産ハ加州州法ニヨリ妻又ハ子ノ何レニ帰屬スベキヤ本人ハ所有地ニ関シ遺言ヲナサザリシヤ取調べ至急当方及ヒ大使へ電報アレ

四二四 十月 七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ

牧野外務大臣宛（電報）

加州ニテ死亡セル松尾ノ所有地面積、相続關係等ニ付回答ノ件

第二六四号

貴電第七四号ニ関シ宅地買入ノ際ハ空地ナリシ由ナルモ目下ノ狀態取調中同地ニ於ケル一ロットノ面積ハ横二十五フィート縦百五十フィートノ由右宅地ハ千九百十二年六月三日松尾商店支配人佐川ノ名義ヲ以テ買入レ千九百十三年

四二一 十月 六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州在留故松尾平六所有地ニ付回答ノ件

第二六二号

貴電第七三号ニ関シ松尾ハ個人ノ名義ヲ以テ畑及ヒ宅地ヲ所有ス遺族ハ妻及ヒ米國ニ生レシ女子一人アリ尚詳細ハ判明次第電報ス

四二二 十月 六日 在桑港沼野總領事代理ヨリ

牧野外務大臣宛（電報）

加州在留松尾死亡ノ際ノ所有土地ノ所在買入價格等報告ノ件

第二六三号

拙電第二六二号ニ関シ松尾死亡ノ際現ニ所有シタル土地ハ Delrey 所在ノ宅地ニ「ロット」ノミニシテ（前電畑所有ト報告シタルハ誤ナリ）右ハ一九一二年中約三百弗ニテ買入タルモノナリ尚同人ノ遺産ハ目下「アドミニストレート」ノ手ニ在リ
右在米大使ニ電報ス

七月八日松尾ノ名義ニ書替ヘタルモノナリト云フ

Delrey ハ「フレスノ」ヨリ約二十哩ノ僻地ニテ正確ナル報道ヲ迅速ニ入手シ難キニ付館員一名派遣方至意御許可相成タシ

遺産処分ニ就テハ当館頼付ノ弁護士「ウェブ」ノ意見ヲ徴シタルカ松尾ハ州内ニ「レシデンス」ヲ有スルニヨリ同人ノ遺産ハ動産不動産トモ州法ノ適用ヲ受クヘク而シテ「インテステート」ナルヲ以テ加州民法第一三八六條第一項ニ依ルニ死亡者ノ遺族妻及子一人ナルニ於テハ兩人ニ等分セラルルモノナリ

右遺産トハ死亡者ノ「セパレート、プロパーティー」ヲ意味ス蓋シ結婚後夫婦ノ孰レニテモ取得シタル財産ハ特別意志ノ表示ナキトキニ限り「コムミュニティー、プロパーティー」トナリ夫婦ハ之ニ対シ均等ノ權利ヲ有ス故ニ夫ノ遺産ニ対スル妻ノ權利トハ夫ノ「セパレート、プロパーティー」ノミニ対スルモノヲ指ス例ヘハ松尾ノ所有地ノ場合ニ就テ之ヲ言ヘハ其二分ノ一ハ最初ヨリ妻ニ屬スルヲ以テ之ヲ控除セル二分一カ即チ夫ノ遺産ニシテ更ニ其二分一即チ土地全部ノ四分ノ一宛ヲ妻及子ノ兩人ニテ遺産トシテ取得スルコトトナル

但シ遺産ヲ現物ニテ分配スル場合ニハ相続人ノ同意ニ依リ
選択ヲナスコトヲ得ルモノナルニ付米國出生兒ニ於テ土地
ヲ選択スレハ本件ノ土地カ外國人土地法ニヨリ競売セラル
ルコトナカルヘシトノコトナリ

尚前電中目下「アドミニストレーター」ノ手ニ在リトハ其
後調査ノ結果ニ依ルニ松尾ノ妻ニ於テ願出ノ結果自ラ「ス
ペシャル、アドミニストレーター」トナリ居ルモノノ如
シ

右大臣ノ訓令ニ依リ電報ス

四二五 十月 七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

松尾ノ所有地上ニ家屋アル旨報告ノ件

第二六五号

貴電第七四号ニ関シ松尾ノ所有地上ニハ家屋アリ現ニ同人
ノ遺族住居シ居ル由

大使ニ電報シタリ

意見ヲ誤解スル所アルカ如シ蓋シ「クラーク」ハ其覺書中
ニ説明シタル通り第一相続(インヘリット)ハ法律第二條
ノ「アックワイヤ」ナル語中ニ包含セラレ從テ歸化権ナキ
モノト雖不動産相続権ヲ有スルモノト解釈スル余地アルヲ
認メ尤モ裁判所ニ於テ其解釈ヲ採用スヘキヤ否ヤニ付テハ
悲觀說ヲ述ヘタルカ何レニセヨ「インヘリット」ハ何等被
相続人ノ行為ニアラスシテ全ク相続人カ法律ノ適用ニ依リ
当然享有スル利益タルニ止マリ「マッケンネー」意見書
参照)被相続人カ歸化権ヲ有スルヤ否ヤハ本法ノ問フ所ニ
アラス「クラーク」覺書中ニモ何等之ニ言及スル所ナシ
本使ノ所見ニ依レハ米國人民又ハ歸化権ヲ有スル者ハ歸化
権ヲ有セサル者ノ遺産ヲ相続スルニ何等妨ケナカルヘシト
思考ス次ニ第二遺贈(デヴァイス)ニ関シテハ「クラーク」
ハ法律ノ明文ニ徴シ歸化権ナキモノハ不動産ヲ遺贈スルノ
權利ナキコトヲ論斷セリ果シテ然ラハ右歸化権ナキ者ノ
遺贈ハ受遺者ノ歸化権ノ有無ニ拘ラス当然無効ト解釈スル
外ナカルヘク然レトモ更ニ他ノ方面ヨリ見ルニ受遺者カ米
國人民又ハ歸化権ヲ有スル者ナルトキハ第四條ノ probate
sale 又ハ第五條及第六條沒收ニ関スル規定ヲ適用スルヲ
得サルハ右各條ノ明文ニ依リ疑ヲ容レス從テ右遺贈財産ハ

四二六 十月 七日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛(電報)

米國出生日本人ニ依ル親ノ不動産取得方法ニ

関シ邦字新聞ニ公表見合方沼野領事宛訓令ノ件

第二三八号

左ノ通沼野領事ヘ転電アリタシ

第七五号

貴電第二六一号前段米國出生日本人ノ親ノ不動産讓受ニ関
スル件ハ政府ノ見ルトコロ貴見ノ通ナルモ右ハ法律ノ解釈
上「デリケート」ナル点ナルノミナラス米國裁判所ニ於テ
ハ如何ニ之ヲ解釈スヘキヤモ不明ナルニ付公表ハ之ヲ見合
セ適當ノ方法ニ依リ専門家中カ、ル意見ヲ有スル人アル旨
ヲ利害關係者ニ知ラシムルニ止メラレタシ

四二七 十月 七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州在留邦人所有地ノ相続ニ関連シ土地法ノ

解釈ニ付意見開陳ノ件

第二九七号

在桑港總領事往電第二六一号ニ関シ同官ハ「クラーク」ノ

遺贈者カ歸化権ナキコトヲ理由トシテ「プロベート、セー
ル」又ハ沒收処分ニ附セラルルコトナク只遺贈ノ無効ナル
結果受遺者ニ歸屬セスシテ相続人ニ歸屬スルニ至リ其相続
人カ米國人民又ハ歸化権ヲ有スル者ナルトキハ前頭第一ノ
場合ト同シク現形ノ儘之ヲ相続スルコトヲ得ヘク若シ又
歸化権ナキ者ナルトキハ初メテ第四條ノ所謂 any heir or
devisee cannot take real property ノ場合ニ該當スルヲ
以テ「プロベート、セール」ニ附セラルル筈ト思考ス以上
ハ本使一己ノ解釈ニシテ目下「クラーク」旅行中ニ付同氏
ノ意見ヲ確ムルコトヲ得サルニ付「マッケンネー」ニ諮問
スルコトトセリ其結果ハ追テ申進スヘキモ不取敢右御参考
迄桑港ニ電報シタリ

四二八 十月 七日 在米國珍田大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

米國出生日本人ノ親ノ所有地相続問題ニ関スル

沼野宛訓電ノ転電見合ノ件

第二九八号

貴電第二三八号ニ関シ若シ往電第二九七号ノ本使ノ解釈ニ

シテ相当理由アルモノトセハ貴電ヲ其儘桑港へ転電スルト
キハ行違ヲ生スル虞アリト思考シ何分ノ御訓令アル迄転電
見合セ置クコトトセリ
右御承認ヲ請フ

四二九 十月 九日 在米田珍大使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

相続ニ関スル加州土地法ノ解釈ニ付沼野へ

電訓方稟請ノ件

第三〇二号

往電第二九七号相続ノ場合ニ付テハ「マッケンネー」ニ於
テ本使ト同様ノ見解ヲ有スルコトヲ確メタルニ付右御参酌
ノ上在桑港総領事代理へノ御電訓転達方何分ノ義御電訓ヲ
乞フ尚遺贈ノ場合ニ付テハ未タ詳論ニ立入ル運ニ至ラサル
ニ付再調査スルコトト致スヘシ

四三〇 十月 九日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

松尾所有不動産ニ付調査ノ結果報告ノ件

四三一 十月 十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍大使宛(電報)

松尾ノ所有不動産ニ関シ加州官憲ノ処理ヲ注視
ノ上我態度決定ノ意向ナル件

第二四一号

加州問題ノ「テスト、ケース」ニ関シテハ専門家ノ意見御
送付相成タルトコロ松尾平六ノ遺産タル不動産ニ関シテハ
貴電第二三六号「マクスウェル」等ノ意見ニ従ヒ当方ハ加
州官憲ニ於テ法律ニ依リ何分ノ処理ヲ執ル迄觀望シ居リ其
模様如何ニヨリ適當ノ態度ニ出ツル方可然ト思考ス尤モ本
件具体的ケースニ関シテハ加州ニ於テモ「ウェブ」ノ外地
方一流ノ専門家ノ意見ヲ徴スベキ旨并ニ本件ニ関スル事實
ハ細大貴官ニ報告スベキ旨沼野領事へ訓令及ヒタルニ付
キ前頭専門家ヨリ「サッジェッション」ヲ受ケタル行掛リ
ニ鑑ミ貴官ニ於テモ必要ト御認アラハ為念本件松尾ノケー
スニ関シ「マクスウェル」「クラーク」等ノ意見ヲ徴セラ
レタシ

四三〇 第二六六号

松尾遺産ニ関シ調査ノ為メ出張シタル館員ノ報告ニ依リ左
記ノ通訂正及追加申進ス

(一) 前電松尾所有地面積「ロット」ニ付幅二十五「フィ
ート」長百五十「フィート」トアルハ幅五十呎ノ誤ナリ
(二) 右所有地上家屋ハ間口十六呎奥行二十呎位ニシテ本年
四月頃ノ建築ニ係ル

(三) 松尾ハ生前右土地ノ外 Dekey ノ別ノ場所ニ於テ「
ロット」ヲ所有シタリシカ之ハ他ニ売却シタリ尤モ登
記未済ナル為裁判所ニハ遺産ノ一部トシテ申立アリ又松
尾ノ營業所(雜貨店)ハ此地ニ在ルモ其家尾ハ別ニ他
人ヨリ賃借シ居ルモノナリ

(四) Special administrator タリシ松尾ノ寡婦ハ十月六日
裁判所ヨリ正式 Administrator ニ指名セラレタリ

(五) 本件正式処分終了迄ニハ約四月ヲ要スル見込ノ由

(六) 動産ニ関シテハ尚取調中
大使へ電報ス

四三二 十月 十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米田珍大使宛(電報)

米国出生日本人ノ土地相続問題ニ関シ意見ヲ
發表セザル様訓令ノ件

第二四二号

貴電第二九七号及三〇二号ニ関シ右ハ尚ホ疑ノ余地ヲ存ス
ル点アルノミナラス前電ニ言ヘル如ク法律ノ解釈上「デリ
ケート」ナル点ニ係リ且ツ裁判所カ如何ニ解釈スヘキヤモ
不明ニ付旁誤解ヲ避クル為メ本件ニ関スル意見ハ当分一切
外間ニ示サ、ルコトイタシタシ右ニヨリ沼野へ電報ア
レ

四三三 十月 十一日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛(電報)

松尾ノ所有不動産ニ関スル加州官憲ノ措置ヲ
注視シ且専門家ノ意見ヲ徴スル様訓令ノ件

第七八号

貴電第二六四号ニ関シ本件ニツイテハ加州官憲ニ於テ法律
ニ依リ何分ノ処置ヲ執ル迄當方ニ於テハ觀望シ居リ其模様
如何ニヨリ適當ノ態度ニ出ツル方可然ト思考スルニツキ貴

官ハ精細加州官憲ノ為ス所ヲ注視セラル、ト同時ニ「ウェ
ブ」ノ外加州ニ於ケル第一流ノ専門家ニ就キ條約、憲法、
加州民法及ヒ土地法等ノ關係ヨリ本件具体的ケースニツキ
訴訟ノ起ル場合ニ関スル意見ヲ徴シ当方並大使ヘ電報セラ
ルヘシ尚ホ本件ニ關聯スル事実ハ此後發展スルニ随ヒ細大
当方ト共ニ大使ヘ電報アレ尚又松尾ノ娘ノ年齢電報アレ

四三四 十月十一日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加州ニ於テ死亡セル松尾ノ娘ノ年齢回報ノ件

第二七八号

貴電第七八号ニ関シ「フレスノ」County Recorderノ発
給シタル謄本ニ依レハ松尾ノ娘ハ千九百十三年二月廿八日
生トシテ同年三月十五日届出ヲナシアルモ当館ニハ未タ届
出ナシ
大使ヘ電報ス

四三五 十月十七日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加州外務大臣宛

松尾平六遺産取調ノ件

附屬書 松岡書記生報告

機密公第五七号 (十一月十二日接受)

大正二年十月十七日

在桑港

總領事代理 沼野 安太郎 (印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯殿

松尾平六遺産ノ件ニ関シ貴電第七六号ニ依リ当館在勤松岡
書記生ニ「フレスノ」郡「デルレー」出張ヲ命シ同伴ヲ実
地ニ取調ヘシメ候処別紙ノ通り其結果同書記生ヨリ及報告
候條之ニ依リ早速当地一流ノ法律家 Frank P. Deeringニ
依嘱シ遺産ト日米通商條約、加州民法及今回新ニ制定セラ
レタル外国人土地所有禁止法トノ關係等ニ関シ詳細取調方
依頼致置候條右様御承知相成度此段申進候 敬具
本信写送付先
在米大使館

(附屬書)

故松尾平六遺産ニ関スル取調報告

外務書記生 松岡 寿八

一、死亡者

死亡者	松尾平六
死亡者ノ生年月日	明治八年三月廿日
死亡者ノ死亡年月日	大正二年九月十四日
死亡ノ場所	加州フレスノ郡デルレー
死亡者死亡當時ノ住所	同上
死亡者ノ族籍及職業	平民雜貨商
死亡者ノ原籍	熊本県上益城郡甲佐町 上豊内百〇七番

二、死亡者ノ遺留財産

A 宅地二筆

(但シ宅地一筆ハ幅五十「フィート」長百五十「フィ
ート」ノ面積ナリ)
右ハ「デルレー」町ニ在リ同地ノ図面ニ依レバ右宅地
二筆ハ同郡第四区ノ内宅地第七及第八ニ区分セラレタ
ルモノニ当ル(「デルレー」地図附屬書第一参照)

同宅地二筆ハ一九一二年五月十四日太平洋土地開拓会
社(Pacific Land Improvement Co.)ヨリ松尾平六
及エス、佐川共同ノ名義ニテ三百五十弗ノ価格ヲ以テ
之ヲ購入シ一九一三年七月十五日「フレスノ」郡登記

所ニ登記済トナル(附屬書第二参照)然ルニエス、佐
川ハ一九一三年七月八日同上宅地ニ関スル權利ヲ全部
松尾平六ニ譲渡シ一九一三年七月十五日其旨登記済ト
ナル(附屬書第三参照)從テ同上宅地二筆ハ全部故松
尾平六ノ遺産ニ屬スルモノナリ

B 平屋一軒

(但其幅十六「フィート」長二十「フィート」)

右ハ前記宅地第八ノ上ニアリ本年四月頃住居用及物置
用ニ供スル目的ヲ以テ松尾平六之ヲ建テタリ

C 借家一軒

同借家ハ現時商店トシテ使用セラレ居ルモノニテ一九
一〇年十一月十日ヨリ一九一五年六月十四日ニ至ル間
支那人デュードメン、グエイキ及デーフオン、ヨリ毎
月四十五弗ノ家賃ニテ松尾平六之ヲ借入レタルモノナ
リ而シテ同商店ハ「デルレー」第三区宅地第一筆ノ上
ニアリ

(往電第二六六号中此借家ヲ松尾名義ノ土地上ニアリトシ
タルハ誤ナリ)

D 商品其他動産及債權債務

以上遺産ニ関シ松尾芳ノ見積價格ヲ示セバ左ノ如シ

資産ノ部

商品貸付高

八、二三一、五〇 弗

同 見積高

七、四五一、〇〇

馬匹並ニ荷車

二八〇、〇〇

自動車二台

八〇〇、〇〇

家屋並ニ敷地

七〇〇、〇〇

契約事業ヨリ入ルベキ金

一、三六一、一〇

計

一八、八二四、六〇

負債之部

借金

七、四〇〇、〇〇

預金

一、一五二、〇〇

計

八、五五二、〇〇

総財産見積高

一〇、二七二、六〇

三、遺族

寡婦、松尾芳

松尾芳ハ昨春松尾平六一時帰国ノ際大正元年四月三日之

ト結婚シ次デ同伴本年一月渡米シタルモノニシテ芳ハ明

治廿七年四月十九日生ナリ

女兒、松尾千代子

千代子ハ本年二月廿八日「デルレー」ニ生レ三月十五日

ルレー」第四区内宅地第七及第八ノ外尚同第三区内宅地
第二ヲ包含マセ有リト雖モ同宅地ハ其後取調ノ結果故松
尾平六ノ遺産ナラザルコト明トナリタリ

(附屬書第七参照)

註 附屬書第一乃至第七省略

四三六 十一月一日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
加州在留日本人農業者ニ対シ正金銀行ヲシテ長
期貸付ヲ為サシムル義ニ付意見上申ノ件

附屬書 右意見書

機密公第六四号

(十二月一日接受)

大正二年十一月一日

在桑港

総領事代理 沼野 安太郎 (印)

外務大臣男爵 牧野 伸 顯 殿

加州日本人問題ヲ根本的ニ解決スルニ当リ最モ適切ナル一
方法ハ在留日本人ノ実力ヲ増進シ其社会的地位ヲ向上セシ
ムルニアリ而シテ有効ニ此目的ヲ達セントセバ先ツ在留邦

「フレスノ」那役所ニ届出デ済 (附屬書第四参照)

四、遺言ノ有無

寡婦松尾芳ノ語ル所ニ依レバ故松尾平六ハ其生前遺産ニ
関シ何等遺言ヲナシタルコトナシ且又松尾平六ハ「芳」

ト結婚ニ際シ財産上ノ契約ヲナシタルコトナシト言フ

五、遺産ノ処分ニ関スル手續

松尾平六死亡スルヤ寡婦松尾芳ハ直チニ「フレスノ」ノ
上級裁判所ニ出頭シ故松尾平六ノ遺産管財人タルノ任命
ヲ申請シタル処同裁判所ハ法律ノ規定スル手續ヲ了シ同
年九月十六日松尾芳ヲ以テ不取敢特別遺産管財人ニ撰定
シタリ松尾芳ハ式干弗ノ保證金ヲ積ミ其職務ニ服シタリ
松尾芳ハ更ニ同裁判所ニ申請シ正式遺産管財人タルノ任
命ヲ仰キタルニ同裁判所ハ同年十月十六日法律ノ規定ス
ル手續ヲ経テ松尾芳ヲ以テ故松尾平六ノ遺産管財人ニ選
定シ之ト同時ニ同裁判所ハ松尾芳ニ対シ宣誓ヲ命シ且ツ
遺産額ヲ六千弗ト見積リ法律ノ定ムル所ニ依リ其二倍即
一萬二千弗ノ保證金ヲ提供ヲ命ジタリ松尾芳ハ目下其手
続中ナリ (附屬書第五及六参照)

六、遺産管理人任命請求願書中修正ノ件

遺産管理人任命請求願書中故松尾平六ノ遺産トシテ「デ
人ノ財力ヲ充実スル為メ在留邦人多數ノ生業ニシテ且ツ其
最モ長所トスル農業ノ発達ヲ期セザルベカラズ之カ為メ
適當ナル金融機關ノ必要ナルハ敢テ多言ヲ要セザルベシ然
ルニ千九百七年ノ恐慌以來今日ニ至ル迄未タ此種ノ機關ナ
ク会々桑港及羅府ニ正金銀行支店及分店アルモ別紙意見書
記載ノ通り其營業方針トシテ農業ニ必要ナル比較の長期ノ
貸付ヲ為サズ邦人農業者ハ其金融上甚シク不便困難ヲ感シ
其発達進歩上遺憾渺カラザルハ当地官民ノ等シク認識スル
所ニ有之候就テハ将来此缺陷ヲ補充スル一方法トシテ横浜
正金銀行ヲシテ当地ニ於ケル其貸出方針ヲ改良シ同行ノ信
用ニ依リ吸収シタル在留民ノ預金ノ幾部分ヲ割キ加州邦人
農業者中信用確実ナルモノニ対シテハ相当融通ノ途ヲ開カ
シムル様致度別紙ノ通り卑見開陳致候間右御査閱ノ上何分
ノ御考量相仰度此段申進候 敬具

附屬書類 意見書 壹通

(附屬書)

意見書

(一) 在留日本人農業者ニ対シ正金銀行現在ノ貸付制度カ不
便且窮屈ナル事並ニ其実例

(二) 正金銀行民間預金ノ主要部分ハ加州在留民ノ預金ニシテ是等在留民ノ実力涵養ハ其責務ナルト同時ニ又其利益ナリ

(三) 本邦人農業者ニ対スル貸付ノ必要ト其所要金額

(四) 加州邦人農業者ニ対スル金融ハ日本内地又ハ米国人資本家ヲシテ之ニ当ラシムベシトノ論ハ事理ニ通ゼザルモノナリ

(五) 正金銀行ハ其為替ヲ本業トスル業務上農業貸付ニ反対スル論アルモ取ルニ足ラズ

加州外国人土地法トノ關係モ亦必スシモ憂フルニ足ラズ
(六) 現状ノ儘ニテハ正金銀行ハ加州邦人ノ資金吸収ヲ壟斷シ悉ク之ヲ加州以外ニ輸送シテ在留民ノ地位及企業ヲ改善發達セシムヘキ財源ヲ涸渫スルモノナリトノ誹モ強チ無稽ニ非ス

(七) 要 領

(一) 在留日本人農業者ニ対シ正金銀行現在ノ

貸付制度カ不便且窮屈ナル事並ニ其実例

正金銀行ハ本来一ノ為替銀行ニシテ当地ニ於ケル同支店ノ業務ハ常ニ大ニ在留者ノ預金吸収ニ努ムルモノニ同銀行本来ノ目的タル為替資金供給ノ用ニ供ヘントスルモノニシテ

右ハ三十八名連帶ノ責任ナルコト及確實ナル抵当物ヲ提供セル外總代四名ハ孰レモ相当ノ資産ヲ有シ個人トシテモ充分信用スルニ足ルベキモノアリシノミナラズ大ニ同情スベキ事情アリタルヲ以テ特ニ本店ニ対シ右貸付ノ許可ヲ求メタルニ斯ル貸出ヲ承認スル時ハ今後モ斯ル貸付申出ヲ拒絶スル能ハザルヘシトノ理由ニヨリ右貸付不許可ノ指令ニ接シタリトノコトナルガ右貸出不許可ノ表面ノ理由ハ孰レニアリトスルモ要スルニ正金銀行ハ其本来ノ目的タル為替關係事項ノ外ハ其貸出ヲ為ス事能ハズト言フモノナルベク銀行ノ性質上一応当然ナルガ如シト雖モ斯ノ如キハ当地在留者ト極メテ密接ノ關係アル大銀行ノ態度トシテハ甚ダ面白カラザルノミナラズ次項ニ陳ブル理由ニヨリ同銀行自家ノ利害ヨリ言フモ是亦決シテ策ノ得タルモノニハ非ルベシ

(二) 正金銀行民間預金ノ主要部分ハ加州在留

民ノ預金ニシテ是等在留民ノ実力ヲ培養

スルハ其責務ナルト同時ニ又其利益也

今試ミニ当地同銀行支店及其出張所ノ取扱ニ係ル日本人在留者ノ預金及ヒ送金高ヲ檢スルニ大正二年九月末日ニ於ケル預金高ハ總計貳千貳百萬円(内桑港支店預金壹百六拾萬円桑港支店經由本店預金壹千七百六拾萬円本年二月開設ノ

其殆ソド全部ハ是ヲ倫敦其他ノ地方ニ移送シ当地ノ貸出トシテハ僅ニ三井物産会社其他少數貿易業者等ニ対スル商業上ノ短期貸付ヲ為スニ止リ右以外ノ者ニ対シテハ極メテ少額且ツ短期ナルモノノ外ハ特ニ本店ニ経伺ノ上其許可ヲ得タル後ニアラザレバ全然貸出ヲ為サザル事ナリ居ルノミナラズ右特別貸付ナルモノモ實際ハ殆ソド有名無実ノモノニテ同店目下ノ營業振ニ徴スルニ為替以外ノ貸付ハ殆ソド全ク之ヲ拒否シツ、アルモノノ如シ(過般閣下ノ御尽力ニヨリ地券獲得ノ為メ十五萬弗ヲ限り特別貸付ヲナシタルハ例外トス)、現ニ本年ノ如キモ当州「フレズノ」郡「ボールス」ト称スル地方ニテハ旱魃ノ為メ同地一帶ノ葡萄園ハ殆ソド總テ非常ナル損害ヲ受ケ同地在住日本人中ニモ其被害者少カラズ為メニ邦人農業者家中土地買入レ代金未払額及其利子并ニ今後ノ事業費等ノ仕払ニ差支ヘ困難甚シキニ付右救済ノ為メ同地日本人葡萄園主三十八名連合ノ上当地正金銀行支店ニ対シ切ニ其事情ヲ訴ヘ所有地壹千壹百拾英加(此価格約三拾四萬壹千弗ナルモ此地所ニ伴フ負債約九萬八千弗アルヲ以テ差引正味資産額大凡廿四萬三千弗トナルベシト云フ)ヲ提供シ且ツ右一同ノ連帶責任ヲ以テ来年九月ノ收穫期迄米貨參萬弗ノ貸付ヲ乞ヒタルニ同支店長ハ

「ロサンゼルス」分店ノ預金八拾萬円同分店經由本店預金貳百萬円)、又大正元年中同支店取扱ノ日本ヘノ送金高ハ約壹千貳拾萬円ナリトノコトナルガ過去兩三年ノ実績ニ徴スルニ右預金ハ毎年四百萬円内外ノ割合ヲ以テ増加シ送金ハ必シモ右ノ比例ニヨラザルモ是亦年々長大ナル速力ヲ以テ増加シツ、アルモノノ如シ是實ニ加州在留邦人ガ正金銀行營業資本ノ一大供給者タルコトヲ示スモノニシテ加州ニ於ケル日本人ノ繁榮ト否トハ直チニ同銀行ノ營業ノ實力ニ至大ナル關係ヲ及ボスモノナレバ正金銀行タルモノ宜シク常ニ加州在留日本人ノ利害ヲ顧念シ其繁榮福利ノ為メニ努力スベキ道德上ノ責務ヲ有スルノミナラズ自家ノ營業上ノ利害ヨリ之ヲ云フモ在留民ニ適當ノ便宜幫助ヲ与フルハ是畢竟自家利源ヲ涵養シ更ラニ大ナル利益ヲ將來ニ期スル所以ニ外ナラズ

(三) 本邦人農業者ニ対スル貸出ノ必要ト之ニ

要スル資金額

從而正金銀行今後ノ方針トシテハ当地ノ如キ特種ノ事情アリ又特種ノ關係アル地方ニ対シテハ必ズシモ本店又ハ他ノ支店ト共通ナル貸出方針ヲ墨守スルコトナク須ラク場合ニ応シテ多少例外例ヲ認メ或ル程度迄ハ農産物又ハ不動産等

ニ対シ特ニ長期貸付ノ道ヲ開キ今後有望ナル日本人事業ノ為メニ金融機關タルノ実ヲ挙グルニ至ランコトハ本官ノ切ニ希望シテ止マザル所ナリ但シ之カ為メニ要スベキ貸付資金額ニ関シテハ多少所見ノ異ナルコトアルベキモ当地同銀行支店長及本官等ノ所見ニヨレバ差シ当リ凡參拾萬円アレバ極メテ重立チタルモノノ需要ニ応ズルニ粗ボ充分ナルベキモ成ルベクハ其範圍ヲ約五拾萬円トシ其貸付ヲ普及セシムルコトヲ得ハ将来邦人農業発達上其ノ効果一層著大ナルベシ

(四) 加州邦人農業者ニ対スル金融ハ日本内地

又ハ米国人資本家ヲシテ之ニ当ラシムベシトノ論ハ事理ニ通ゼザルモノトス

論者或ハ曰ク加州邦人農業者ニ対スル金融ハ必スシモ正金銀行ヲシテ之ニ当ラシムルヲ要セズ日本内地又ハ米国人資本家ヲシテ之ニ当ラシムルヲ可トスト、然レトモ是等資本家ハ加州邦人農業者ニ対シ多クハ直接ノ利害關係ナキヲ以テ其出資協力ヲ仰クハ事既ニ容易ノ業ニ非ズ又本邦財界ノ状態並ニ当地日米人間ノ關係ハ未タ俄ニ斯種ノ企業ノ成立ヲ許サザルモノアリ加之当地日本人企業ノ實際ノ欠点ハ在留者全体ノ財力缺乏ニアラズシテ寧ロ在留邦人間ニ於ケ

少部分ニ外ナラズ又其總計額モ僅カニ五拾萬円ニ過ギズトセバ遺般ノ貸出ヲナストスルモ何等同行ノ為替銀行タル本質ヲ動カスモノニ非ルハ勿論之カ為メ為替資金又ハ流通資金ノ缺乏ヲ云為スル必要ダモ無カルベシ況ンヤ同銀行ガ一種ノ National institution トシテ特種ノ地位ヲ有スルヲ思ハバ正金銀行カ前記ノ如キ意見ヲ懷抱スルハ聊カ容認シ難キ所ナリ更ニ況ンヤ右貸付ハ總テ營業上ノ損益ヲ基礎トシ借主ノ信用并ニ其抵当物ノ確否ヲ標準トナシ且ツ相当利子ヲ徴收スルモノナレバ銀行ノ營業上特ニ重大ナル支障アルベシトハ想像シ得ベカラズ

尤モ右貸付実行ノ場合ニハ之レカ為メニ特種ノ費用ヲ要シ又タ多数貸付ノ内ニハ多少ノ損失ヲ招クガ如キコトハ之レアルベキモ斯ノ如キハ如何ナル事業ニモ免レ難キ所ナルノミナラズ斯ル損失ハ其貸付條件及当局者ノ注意次第ニテ之ヲ避クルコトヲ得ベキモノナレバ是等ハ必シモ異存ノ理由トナスニ足ラザルベシ

尤モ加州ニ於テハ土地法施行ノ結果日本人ハ土地ヲ所有スルコト能ハザルヲ以テ正金銀行ガ土地ヲ抵当トシテ貸付ヲ為スコトハ抵当流ノ場合ニ於テ之ヲ自己ノ所有ニ移スコト能ハザルノ不便アリト雖モ此点ニ関シテハ先以テ借手ノ地

ル資本ノ供給ト需要トガ互ニ一方ニ偏在シ之ヲ聯絡調和スルノ道ヲ有セザルニアルハ前記統計ノ示スカ如ク在留邦人カ多大ナル預金及送金能力アルニ徴スルモ明ナレバ若シ克ク適當ノ方法ニヨリ有無相通ノ道ヲ開クニ至ラバ在留邦人間ニ於テ必要ナル位ノ資金ハ敢テ外間ノ援助ヲ仰カズトモ在留邦人ノ間ノミニテ都合シ得ヘキハ推測ニ難カラズ故ニ關係薄キ日本内地又ハ米国資本家ノ援助ニ依ルヨリハ当地限リニ於テ有無相通ノ機關ヲ設ケ資本ト企業トノ聯絡調和ヲ計ルハ是レ最モ自然ノ実状ニ適應セル最善最良ノ策ナリトス

(五) 正金銀行ハ其為替ヲ本業トスル業務上農

業貸付ニ反對スル論アルモ取ルニ足ラズ、加州土地法トノ關係モ亦必ズシモ憂

フルニ足ラズ

正金銀行ハ加州邦人農業者ニ対スル貸付ヲ以テ多少ニテモ其流動資金ヲ固定セシムルモノナリトシ其専門タル為替營業ノ為メニ有利ナラサルヲ以テ当地農業者ノ為メニ特ニ斯ル除外例ヲ設クルコトヲ好マザルヤモ計リ難シト雖モ本件農業貸付ノ為メニ必要ナル資金ハ同行ガ当地在留民ヨリ吸收スル預金及送金額ニ比スルニ殆ンド挙クルニ足ラサル僅

位及信用ニ重キヲ置キ(同時ニ抵当物ヲ可成安全ノモノナラシムルハ勿論)其地方ニ於ケル若干ノ有力者ヲシテ連帯保證セシムルカ或ハ又其地ノ重立チタル日本人ヲシテ一種信用組合ノ如キモノヲ組織セシメ同組合ヲ通ジテ貸附クル等ノ方法モアルベキニ付若シ正金銀行ニシテ長期ノ貸付ヲ為スニ異存ナキニ於テハ其貸付方法ノ如何ノ如キハ必スシモ困難ナル問題ニハアラザルヘント思考セラル

(六) 現状ノ儘ニテハ正金銀行ハ加州在留邦人

ノ資金吸收ヲ嚮斷シ悉ク之ヲ加州以外ニ輸送シテ在留民ノ地位企業ヲ改善発達セシムベキ財源ヲ枯渴スルモノナリトノ誹

モ強チ無稽ニ非ルベシ

当地日本人間ノ缺陷ハ在留日本人全体ノ間ニ於ケル財力缺乏セルニアラスシテ寧ロ彼等ノ間ニ於テ資本ノ供給ト需要トカ互ニ適合調和スルノ道ヲ有セサルニアルコトハ前段説明ノ通りニシテ一方ニ於テ正金銀行カ当地ニ於テ連リニ是等在留者ノ預金ヲ吸收シ之ヲ加州以外ニ於ケル同銀行ノ事業資金ニ転用シツ、アルト同時ニ他方ニ於テ当地ノ事業家力常ニ資本ノ缺乏ヲ嘆ジツ、アルガ如キ明ニ右ノ事実ヲ證明スルモノニシテ労働者ノ側ヨリ之ヲ見レバ正金銀行カ

其預金及送金ノ機關トシテ極メテ確實ナルコトハ敢テ疑ヲ容レサルモ事業家ノ地位ヨリ之ヲ見レバ正金銀行ハ一方ニ於テハ加州日本人間ニ於ケル資金ノ吸收ヲ壟斷シ他ノ一方ニ於テハ其資金ノ殆ンド全部ヲ挙ゲテ之ヲ州外ニ投シ加州日本人生業ノ基礎タル農業ニ必要ノ財援ヲ与ヘサルモノニシテ加州ニ於ケル日本人ノ地位企業ヲ改善セシムヘキ財源ヲ涸渇スルモノナリトノ誹モ強チ無稽ニ非ルベク同行ニ対スル此種ノ批難ハ当地ニ於テ本官等ノ屢々耳ニスル所ナリ尤モ薄資ノ在留日本人少数個人ヲシテ在留者間ノ金融事業ニ関与セシムルガ如キハ数年前「日米」「金門」両銀行ノ破産等ノ実例モ有之頗ル危険ナルモノニシテ斯ル機關ノ成立ハ本官ノ斷ジテ好マザル所ナリト雖モ其正金銀行アルガ為ニ当地ノ資金カ常ニ同行ノ庫中ニ吸收セラレ当地事業家ニ資金供給ノ途ヲ絶ツカ如キハ是亦極メテ好マシカラザル事象ナリトス惟フニ正金銀行支店カ当地ニ嚴存シ其強固ナル基礎及信用ニ依リ在留邦人一般ノ預金及送金ヲ吸收シツ、アルハ他面ニ於テ本邦有力ノ銀行ヲシテ当地ニ於テ同種ノ事業ヲ開始スルノ機會ヲ減殺シ在留邦人ノ預金及送金ノ大部分ハ現狀ノ儘自然正金銀行ノ独占ニ歸スベキ運命ニアルトヲ意味ス從テ正金銀行タルモノハ這般独占ノ利益ヲ

最長四ヶ年位ヲ限度トシ長期貸付ヲナサシムル機井ニ同銀行当地在留者預金ノ内ヨリ米貨貳拾五萬弗ヲ限リトシ在桑港支店長ノ裁量ヲ以テ隨時之ヲ右貸出資金ニ利用セシメ得ルトコトニ同行ノ方針ヲ改訂セシムルヲ要ス

四三七 十一月五日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

加州ニ於テ死亡セル松尾ノ遺産不動産歸屬ニ関

スル法律家「デリーング」ノ意見報告ノ件

第二七三号

貴電ニ関シテハ「カリフォルニア」州法典編纂ニ關係アリ当地方ニ名望アル法律家 Frank P. Deering 氏ノ意見ヲ徴シ置キタルニ十一月四日提出シ来レル同氏意見ノ概要左ノ如シ

一、加州々法ニヨレバ遺言ナキ遺産相続ノ場合ニハ被相続人死亡後其遺産ハ法律ノ結果直チニ相続人ニ歸屬(Vest)ス遺産裁判所ハ単ニ其事実ヲ確認スルニ止マリ相続人ニ對シ何等新シキ權利ヲ与フルモノニアラス而シテ松尾ノ場合ニハ各相続人(妻及子)ノ權利ハ遺産ノ各部分ニ對

享受スルト同時ニ之ニ對シ相当德義上ノ責務ニ任シ營業上多少ノ不利ヲモ忍ブベキハ事理ノ当然ナリトス況ンヤ上述ノ如ク這般責務ノ実行(即チ当面ノ問題トシテハ農業家ニ對シ長期ノ貸付ヲ為スコト)ハ敢テ營業上ノ不利ヲ意味セサルニ於テヲヤ

彼ノ当地方ニ於ケル独逸人、伊太利人等ガ各自幾多有力ナル金融機關ヲ有シ着々其地位企業ヲ改善發達セシメ米國人ニ對スル信用並ニ勢力ヲ増進シツ、アルニ獨リ在留邦人ノ実力年処ヲ経ルモ猶ホ依然トシテ微弱ナルニ想到セバ思半ニ過グルモノアラン

(七) 要 領

之ヲ要スルニ当地日本人企業家殊ニ農業家ノ為メ当地ニ於テ或ル種ノ金融機關ヲ設クルコトハ加州日本人問題ヲ根蒂ヨリ解決スルニ最有力ナル一策ニシテ右実行ノ方法ハ横浜正金銀行桑港支店及「ロサンゼルス」同分店ヲ利用スルヲ以テ最モ便宜ナリトスルノミナラズ右方法ニ拠ルトハ實際銀行自身ニトリテモ又其一大利益タルモノナルニ付キ今後同銀行ヲシテ右支店及分店ニ關スル限り從來ノ貸付方針ヲ一變シ信用確實ナル借主ニ對シテハ相当ノ利率及條件(農産物其他農業上ノ利益ヲ抵当トスルモ可ナリ)ヲ以テ

シ均等ナリ(民法第一四〇二条)裁判所ハ遺産中ヨリ動産ヲ母ニ与ヘ不動産ヲ子ニ与フルガ如キ自由処分ヲナスヲ得ズ若シ相続人双方ノ合意ニヨリ遺産中ヨリ各自ノ欲スル部分ヲ選択セントセバ先ヅ前提トシテ遺産中ノ当該部分ニ對スル權利讓渡ノ合意アルヲ要ス然レトモ松尾寡婦ノ場合ニハ同人ハ土地法ノ結果不動産ニ關スル權利ヲ其儘相続スルヲ得サルニヨリ同人ハ畢竟右ノ如キ讓渡ヲナシ得ザルモノトス即チ松尾ノ寡婦ハ自身土地ヲ相続シ得ザルノミナラス土地ニ對スル自己ノ權利ヲ其子ニ与フルコトモ為シ能ハザルナリ故ニ子ヲシテ土地ノ全部ヲ取得セシメントセバ土地法ナクバ母ニ於テ取得シ得ベキ一半ノ土地ガ公売セラルル時之ヲ買入レシムルニアリ因テ本件ニ付 test case ハ尠クトモ左記二項ノ場合ニ起リ得ベシ

(1) The mother executes deed of her interest in real property to daughter. The latter petitions the court for a distribution to herself of all real property, one half in her own right, as heir the other half, as transferee of her mother's half. The court refuses to distribute the mother's half, claiming it had no power to do so under the alien land act. Appeal

could be taken from such ruling.

(2) Widow herself might petition court to distribute directly to her one half of real property, to which she succeeded as heir. This also court would decline to do for same reason, from which order widow could appeal.

尚ホ右 test case ノ結果勝算ノ有無ニ関シテハ引續キ研究ヲ依頼シ置ケリ尤モ土地法ト條約及ビ合衆國憲法トノ關係ニ付テハ既ニ東部ニ於ケル専門家ノ意見ヲモ徵セラレタルコトニ付 Deering 氏ニハ特ニ加州々法ノ見地ヨリ研究方ヲ依頼シタリ

土地法ガ適法ナルト否トニ拘ハラズ在留日本人当面ノ問題トシテハ(不明)ノ土地法ノ下ニ於テ最モ確實ニ其利益ヲ保護シ得ヘキ方法ヲ知ルコト最モ肝要ナルニ付其方法ニ関シテモ同氏ノ意見ヲ徵シ置ケリ

在米國大使ニ電報ス



四三九 十一月十八日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

横井秀吉ノ遺産タル土地ニ関スル件

附屬書「フロリン」日本人會報告書寫

機密公第六七号

(十二月八日接受)

大正二年十一月十八日

在桑港

總領事代理 沼野 安太郎(印)

外務大臣男爵 牧野 伸顯 殿

加州「フロリン」ニ於テ日本人二人ト組合ニテ三十六英加ノ土地ヲ所有セル横井秀吉ナルモノ帰朝中郷里愛知県ニ於テ死亡シ其遺産タル土地ノ処分上加州外國人土地法適用ノ一新実例ヲ見ヘキ次第ハ昨十七日附拙電第二八〇号ニテ申進候通りニ有之候処猶死亡者ノ事情詳細ニ就テハ別紙「フロリン」日本人會報告書寫及御送附候間右ニテ御了知相成度此段申進候 敬具

附屬書類

「フロリン」日本人會報告書寫

一通

(附屬書)

「フロリン」日本人會報告書寫

四三八 十一月十七日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

横井秀吉ノ遺産タル加州所在ノ土地ノ帰屬問題

ニ関スル件

第二八〇号

加州「フロリン」ニ在留セル横井秀吉ナル者二人ノ日本人ト組合ニテ同地ニ三十六「エークル」ノ土地ヲ所有シ居リタルカ去ル九月六日郷里愛知縣佐居村ニテ死亡シタル旨報告ニ接セリ同人ノ遺産タル土地ノ処分ニ関シ「ディーリング」ノ意見ヲ徵シタル処加州民法第二四五〇條ニヨリ組合員中死亡者アルトキハ必要のニ其解散ヲ来スモノナルニ付右組合ハ横井死亡ノ結果解散シ其財産ハ清算ヲ要ス而シテ斯ル場合ニハ通常生存組合員ニ於テ新タナル組合ヲ組織シ旧組合ノ財産ヲ繼承シ得ヘキ筈ナレトモ本件生存組合員ハ日本人ナルカ故ニ土地法ノ結果旧組合ノ土地ヲ繼承シ得サルヘシトノコトナリ果シテ然ラハ現在組合ニヨリ土地ヲ所有シ居ル日本人ハ組合員中ニ死亡者アラハ直チニ組合所有地全部ヲ失フヘキニ付重大ナル影響アルヘシト存ス

在米大使ニ電報ス



報告書

愛知縣海部郡佐居村字草平新田七番戸

戸主平民新左エ門三男

故 横井 秀吉

明治廿四年六月十日生

秀吉ハ明治三十七年八月実父新左エ門ノ呼寄ニテ渡米シ父ノ許ニテ農業ニ従事シケルガ四十二年十一月父新左エ門帰國後伯父新松、祖父江梅次郎ト共同名義ニテ現土地參拾六英町步(内三十三英町步ハ葡萄、三英町步ハ家宅、牧場、莓地)ヲ所有シ大正二年七月十六日桑港宛「モンゴリア」号ニテ病氣静養ノ為メ妻キン同伴帰國シ(妻キンハ当時妊娠中ニテ十月ガ臨月ナリシ由)同年九月六日郷里ニ於テ病死ス

前記土地三十六英町步ノ由来

一、明治三十五年十月ヨリ同四十一年四月迄右三十六英町步ヲ横井新左エ門单独ニテ所有

一、明治四十一年五月ヨリ四十三年十月マデ新左エ門実弟

新松ノ名義ニテ所有

一、明治四十三年十一月ヨリ横井新松、祖父江梅次郎及ビ故秀吉ノ三人共同名義ニテ所有スルコトナリ今日ニ至ル

一、故横井秀吉大正二年七月十六日帰国ノ際右三十六英町歩ノ三分ノ一(十二英町歩)及農具一切見積現価七百弗ノ処置ヲ実弟横井善吉(明治四十一年十一月渡米後現ニ「フロリン」ニ在留セル者)ニ法律上ノ手續ヲ経テ委託セリト

一、故秀吉生前遺産分配法トシテ郷里ニ存命中ノ両親及ビ妻キン及ビ去ル十月出生スベキ筈ナリシ小兒ニ均等ニ三分スルコトヲ遺言セリト

一、右土地々券ハ故秀吉ノ許ニアル由ニテ全部三十六英町歩ハ別紙ノ如ク式千弗ノ抵当ニ成リ居ルガ如シ

註 別紙ヲ欠ク

四四〇 十一月二十一日 牧野外務大臣ヨリ
在米國珍田大使宛

加州土地法ニ対スル試験訴訟ノ研究ニ関スル調書及松尾平六遺産処分ニ関スル法律問題研究調書送付ノ件

附屬書 松尾平六遺産処分ニ関スル法律問題研究調書
通機密送第一四七号
本件ニ関シ米國諸大家ノ意見呈次御送附相成候処今般古意

sonal, of one who dies without disposing of it by will, passes to the heirs of the intestate, subject to the control of the probate court, and to the possession of any administrator appointed by that court, for the purposes of administration."

"Succession to and distribution of property.

"Sec. 1386. When any person having title to any estate, not otherwise limited by marriage contract, dies without disposing thereof by will, it is succeeded to and must be distributed, unless otherwise expressly provided in this Code and the Code of Civil Procedure, subject to the payment of his debts in the following manner:

"1. If the decedent leaves a surviving husband or wife, and only one child or the lawful issue of one child, in equal shares to the surviving husband or wife and child or issue of such child." xxx.

"Distribution of common (community ?) property on the death of the husband.

"Sec. 1402. Upon the death of the husband, one-half of the community property goes to the

見ヲ参酌考覈ノ上当省「デニン」氏ノ作製ニカカル調書並ニ松尾平六遺産処分ニ関スル法律問題研究調書別紙ノ通り茲ニ及御送附候條右ニ対シ御意見有之候ハバ御電報相成候様致度此段申進候也

註 加州土地法ニ対スル試験訴訟ノ研究ニ関スル「デニン」氏調書ヲ省略ス
尙本件ニ調書ハ十一月二十一日附通機密送第三三号ヲ以テ在桑港沼野総領事ニ送付セラレタリ

(附屬書)

松尾平六遺産処分ニ関スル法律問題研究調書

The Civil Code of California contains the following provisions:

"Community property.

"Sec. 164. All property acquired after marriage by either husband or wife or both is community property, xxx.

"Sec. 687. Community property is property acquired by husband and wife or either, during marriage, when not acquired as the separate property of either."

"Succession to estates of intestate.

"Sec. 1384. The property, both real and per-

surviving wife, and the other half is subject to the testamentary disposition of the husband, and in the absence of such disposition, goes to his descendants." xxx.

Mr. Matsuo dies intestate. He left a wife and one child. The latter is, accordingly, his descendant. The wife is administratrix of the estate. The child having been "born in the United States and subject to the jurisdiction thereof, is a citizen of the United States." The decedent owned at the time of his death two building lots with a house thereon, in Delrey. That property was probably community property and in ordinary circumstances would go, one-half to the surviving wife and the other half to his child.

But the recent anti-alien land law provides—

"Sec. 4. Whenever it appears to the court in any probate proceedings that by reason of the provisions of this Act, any heir or devisee cannot take real property in this State, which but for said provisions, said heir or devisee would take as such, the court instead of ordering the distribution of such real property to

such heir or devisee, shall order the sale of the said real property to be made in the manner provided by law for probate sales of real property and the proceeds of such sale shall be distributed to such heir or devisee in lieu of such real property.

A strict construction of Sec. 2, of the anti-alien law, would, it is believed, prevent either the wife or child, in the present instance, from inheriting the property in question. But such a construction would at once, so far as the wife is concerned, raise the treaty question of the capacity of a Japanese subject to inherit property, which the existing Japanese-American treaty authorizes Japanese subjects "to own," and in the case of the child, it would raise the constitutional question of the right of an American citizen to inherit property from a Japanese subject.

In the actual situation it is quite impossible to say what course of action the Probate Court will take when it has to pass upon the final report of the administratrix.

It may either order—

In any case, the proceedings should be under the control of the Imperial Government, and should as a matter of choice, be brought in the Federal Courts. To the fullest extent possible, the assistance and good offices, offered by the United States, should be availed of. Care should be taken that the pleadings on the Part of the Japanese, are so drawn as to raise all the issues involved in the alien land law question including the question of naturalization.

四四一 十一月二十七日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛(電報)

横井ノ遺産タル加州所在土地、相続人等ニ関シ

問合ノ件

第八七号

貴電第二八〇号横井秀吉所有土地買得ノ年月日使用ノ目的建築物ノ有無同人ノ相続人ハ何人ニシテ何処ニ現住スルヤ米国生レノ子供アリヤ遺言ノ有無並ニ同人等ノ組合ハ加州民法第六八二條ニ列挙サレタル財産所有種類中何レニヨリ

三 加州土地法成立後ノ日本人所有地処理關係 四四一

1. The distribution of the property as provided by Sec. 1386 and 1402, aforesaid, of the Civil Code.
2. The sale of the property and the distribution of the proceeds as provided by Sec. 4, above quoted, of the alien land law, or
3. The sale of the wife's undivided one-half share of the property and the payment to her of the proceeds.

In the first alternative, the Imperial Government will not be called upon to take any action. An order in that sense would be in accord with their contentions.

In the second alternative, appropriate legal proceedings should at once be taken in the names of the wife and child, to restrain the sale of the property. The wife being an alien, can bring the proceedings in the Federal Court instead of the State Courts.

In the third alternative, similar proceedings to those suggested in the second alternative, should be instituted, but they will probably have to be brought in the name of the wife alone.

該土地ヲ保有スルヤ承知シタク尚ホ組合ニヨリ土地ヲ所有シ居ル実例凡何程アリヤ併テ電報アレ

四四二 十二月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

横井ノ遺産ニ関シ回答ノ件

第二八五号

貴電八七号ニ関シ其後館員ヲ派シ調査セシメタルニ横井カ他ノ二人ト組合ニテ土地ヲ所有セルト言フハ遺産処分ヲ引受ケ居ル弁護士ノ意見ニヨルニ右ハ加州民法第六八二條第三項則チ interest in common ニ相当シ又同人カ共有地ニ対スル持分ハ同條第四項ニヨリ妻トノ Community property ナリトノコトナリ横井ニハ米国出生兒ナク寡婦ハ夫ノ郷里愛知県ニ在リ地券モ其手許ニ在ル筈ナリ且ツ横井ノ共有者二名ハ其持分ニ対シ共有地ノ分割ヲ受クル代リニ其売得金ノ分配ヲ希望シ居ルモ横井ノ死亡其他ニ関スル書類未到着ノ為メ遺産管理人ノ指命其他正式ノ手續ヲ進行シ居ラス

右ノ外御尋ネ越シノ事項ハ来ル六日本邦著地洋九便ニテ委

四四二 四四九

細申進シ置キタルモ更ニ詳細十二月三日当地発^レ便公
信ニテ御承知アリタシ但シ当州在留日本人組合所有地ノ実
例ハ尚ホ調査中

四四三 十二月二日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

横井秀吉ノ加州所在遺産ニ関シ報告ノ件

附屬書 右遺産ニ関スル松岡書記生取調報告書

機密公第七九号 (十二月二十四日接受)

大正二年十二月二日

在桑港

総領事代理 沼野安太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

横井秀吉遺産ノ件ニ関シテハ十一月十八日付機密六七号ヲ
以テ申進置候次第有之候処今回貴電第八七号ニ依リ御問合
セノ次第有之候條特ニ当館在勤松岡書記生ヲシテ「フロ
リン」ニ出張ヲ命ジ同伴ニ関シ取調べシメ候処其結果要点
ハ已ニ拙電第二八五号ヲ以テ御回答申進候ヘドモ尚其取調
ノ際曩ニ「フロリン」日本人会ノ報告ニ誤謬アリ加フル

レバ茲ニ此レヲ省略ス同人ノ相続人ハ總テ目下本籍地ニア
リ在「フロリン」実弟善吉ノ言フトコロニ依レバ未亡人
ハ夫秀吉ノ死後間モナク日本ニ於テ男児ヲ分娩セリト言フ
要之相続人中ニハ米国ノ市民権ヲ有スルモノ一人モナシ遺
言ニ関シテハ日本人会ノ報告ノ如ク故秀吉ハ其生前中死後
其財産ハ父母及妻子ニ均等ニ分与スベキ旨並ニ之ガ執行方
ヲ在「フロリン」実弟善吉ニ委任スベキ旨ノ遺言ヲナシ置
キタリ(遺言状写甲号参照)然ルニ故秀吉ノ所有セル土地
ハ抽象的ニ農園三十六英町歩ノ二分ノ一ト定メアルノミニ
テ具体的ニ其何レノ部分ナルヤヲ明ニセズ加フルニ他人モ
亦同農園ニ対シ故秀吉同様或ル未確定ナル權利ヲ有ス即チ
横井新松ハ四十二年十一月同土地ノ四分ノ一ノ所有權ヲ
祖父江梅次郎ニ売却シ(別紙丙号)自己ハ其全部ノ四分ノ
一ノ所有權ヲ留保スルニ至リタルヲ以テ(別紙丁号)結局
同農園ハ秀吉、祖父江梅次郎及横井新松ノ三名ノ所有ニ屬
シ別言スレバ同農園ニ対シ横井新松及祖父江梅次郎ノ兩人
ハ各其四分ノ一ノ土地ヲ所有シ故秀吉ハ其二分ノ一ノ土地
ヲ所有スルト言フ一種ノ共有財産トナリ居ルニ付キ此共有
財産ハ加州民法第六八二條中何項ニ屬スルモノナルヤニ
関シ同遺産關係代言人在「サクラメント」「マッカデー」

ニ不足セル所アルヲ發見セルヲ以テ同書記生ヨリ別紙ノ通
リ報告書作成提出仕候條右為御參考及御報告候 敬具

(附屬書)

外務書記生 松岡 寿八

故横井秀吉遺産ニ関スル取調報告書

愛知県海部郡佐居村字草平新田七番戸横井新左エ門三男横
井秀吉財産ヲ加州「フロリン」ニ残シ本年九月六日郷里
草平ニ病死セリ今其財産ヲ調査スルニ故秀吉ハ「フロ
リン」ニ於テ三十六英町歩ノ一農園及之ニ附屬スル家屋農具
等一切ノ財産(価格約壹萬弗)ニ対シ其二分ノ一ノ權利ヲ
有セリ而シテ該權利ハ明治四十三年十一月該農園全部所有
者タリシ横井新松ヨリ買受ケタルモノナリ之ニ関スル地券
ハ故秀吉帰國ノ際自身ニ之ヲ携帯セル由ナレバ当地ニ於テ
之ヲ見出スコト能ハザレドモ上記ノ所有財産ニ関シテハ別
紙乙号委任状中ニ明記セラレアルノミナラズ横井新松ニ於
テモ之ヲ承認シ居ル次第ナレバ曩ニ「フロリン」日本人会
ノ報告中ニ故秀吉ガ全土地ニ関シ其三分ノ一ヲ所有スルモ
ノ如ク記載セルハ誤謬ニ屬ス又同土地ノ使用目的建築物
等ニ関シテハ同日本人会ノ報告中ニ既ニ詳記セラルル所ア

氏(McCurdy)ノ意見ヲ聞キタルニ同氏ハ此所有ハ同條中
第三項即チ共有財産(Interests in common)ニ相当スル
モノニシテ内故秀吉ノ分ニ関シテハ其寡婦トノ間ニ同條第
四項ニ依ル夫婦共有財産タルモノナリト答ヘタリ尚故秀吉
遺産ノ処分ニ関シテハ關係所有者等シク其持分ニ関シ売
却セントノ意向アルヲ以テ其遺産問題ニ關聯シ新土地法ノ
適用問題ガ特ニ論議セラルル機会ガ或ハ来ルコトナカルベ
キカ然レトモ同遺産ニ関シ遺言執行者ハ未ダ法律上ノ手続
ヲ完了セズ但シ目下其手続中ナリ

尚上述三十六英町歩ノ農園ハ曩ニ横井新松ニ於テ全部之ヲ
所有セル際三千弗ニテ入質セルモノニシテ其後此三十六英
町歩ニ關係所有者トナレル兩名ハ此入質ノ事實ヲ承認ノ上
之ニ關係スルニ至リタルモノナリ

附屬書類

甲号 遺言状写 宅通
参通 乙号 委任状写 宅通
丙号 地券写 宅通

註 附屬書類省略

四四四 十二月四日 牧野外務大臣ヨリ
在桑港沼野総領事代理宛（電報）

松尾ノ遺産管理人及管理ノ状況問合ノ件

第八八号

松尾遺産管理ハ實際何人ガ世話ヲ為シ居ルヤ管理処分ハ如何ニ進行シツ、アリヤ回電アレ

四四五 十二月四日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

松尾ノ遺産管理ノ状況ニ付回報ノ件

第二九〇号

松尾ノ遺産管理ハ松尾ノ実兄 太野寡婦ヲ補佐シ之カ實際ノ世話ヲ為シ營業ハ支配人佐川之ヲ引受ケ居リ又遺産処分ハ其儘ニナリ居ル由

四四六 十二月二十日 松井外務次官ヨリ
勝田大蔵次官宛

加州在留日本人農業者ニ対シ正金銀行ヲシテ長期貸付ヲ為サシムル件

通機密送第一一五号

本件ニ関シ在桑港沼野総領事代理ヨリ別紙写之通牒々稟申ノ次第有之茲ニ供貴覽候條右ニ対スル何分ノ御意見御回示相成度此段申進候也

註 別紙ハ前掲四三六文書ノ附屬書ト同文ナリ省略ス

事項四 加州土地問題ニ関スル米國新聞論調

四四七 四月十日 在桑港熊崎総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法案ヲ非トセル桑港「クロニクル」紙

ノ論評報告ノ件

第五〇号

土地案ニ関シ当地「クロニクル」ハ昨日加州州会ヲ以テ狂氣且白痴ナリト評シ現ニ州内ニ於テ広大ナル土地ヲ所有セラル鐵道鉱山其他有力ナル諸会社ノ株ノ過半数カ外国人ニ依リテ所有セラル、コト竝右ニ依リテ移入セラレタル外国資本ガ州ノ富源ヲ開發スルニ偉功アリタル事實ヲ指摘シ本案通過ノ結果ハ現ニ各地ニ居住スル多数歐洲人ハ為ニ其財産ヲ失フノミナラス三年以上借地ヲ為スコト能ハサルニ至ルヘク加州ハ遂ニ世界ヲ敵トシ自滅ヲ招クノ外ナキニ至ルヘシト論シ本日再ヒ多数米國人ハ日本トノ紛擾ヲ避ケ之ト友好ヲ保持センコトヲ希望セルニ拘ハラス單リ加州ノミ之ト背反スルガ如キ行為ヲ為ストキハ中央議會及一般米國人ハ之ヲ自己ノ責任ニ帰スルモノトシ加州ニ対シ極メテ不利

ノ態度ニ出ツルコトアルヘキヲ期セサルヘカラス吾人ハ今日忍ンテ斯ノ如キ事態ヲ惹起スヘキカ如キ困難ナル事情ヲ有セスト論シタリ

四四八 四月十六日 在桑港沼野総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

加州土地法案反対ノ新聞記事論說寄書ニ付

報告ノ件

第七二号

既報ノ通從來当地ニ於テ公然土地案ニ反対ノ言說ヲ為スモノ極メテ鮮カリシカ近日該案通過ノ形勢愈々切迫シタルニ際シ当地ノ「コール」「クロニクル」「ポスト」、「オークランド」ノ「トリビューン」「エンクワイラー」、「サクラメント」ノ「ユニオン」、「マーズクリヴィル」ノ「サン」、「フレズノ」ノ「レパブリカン」、「パサデナ」ノ「ニウズ」、「ロサンゼルス」ノ「タイムス」等ノ諸新聞紙ハ該案反対